

音楽と蘇生に関する研究が一般市民の蘇生教育に還元

京都府立医科大学提供
作成日 2016年 2月 24日
更新日



研究者氏名 やまはた よしひろ 山畑 佳篤	所属機関 京都府立医科大学 医学研究科	関連キーワード(複数可) 心肺蘇生、教育、音楽、多分野
主な研究テーマ ・心肺蘇生教育に関する研究	主な採択課題 ・挑戦的萌芽研究 平成25～27年度(配分総額:3,900千円) 課題名「音楽および音声が救急蘇生法の質に与える影響に関する挑戦的萌芽研究」	

科研費による研究成果

- ・胸骨圧迫訓練時に音楽を用いると、有効な胸骨圧迫の習得に役立つとの研究報告は複数ある。しかしそれらの研究は特定の楽曲を用いたものであり、対象によっては特定の楽曲を用いることに不快感を感じるとの研究報告もある。
- ・本研究では特定の楽曲ではなく、音楽そのものが胸骨圧迫の実施に与える影響を検証した。
- ・その結果、テンポが112/分、リズムが8ビートの楽曲が良好な胸骨圧迫の学習に効率が良いことがわかった。
- ・研究成果をもとに、具体例として「Diamonds」という楽曲の歌詞を許可を得て改変し、心肺蘇生の習得に役立つものとして成果物として作成した。

<https://www.youtube.com/watch?v=B0B6J3rj6Xc>



当初予想していなかった意外な展開

- ・学会活動に関する取材時に、本研究について話題にのぼり、医学関連誌にニュースとして取り上げられた。
<https://medical-tribune.co.jp/news/2015/1027037669/>
- ・さらに一般紙においても記事として取り上げられ、その記事をもとにラジオやテレビ等のメディアにも取り上げられた。
<http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=129812%3Ffrom%3Dfb>
- ・一般紙の記事を見た、蘇生教育関係者(医師、看護師、救急隊など)から問い合わせがあり、実際の各地の蘇生教育で用いられるという社会還元に至った。

今後期待される波及効果、社会への還元など

- ・蘇生教育への関心が高まり、講習受講者が増える。
 - ・歌を聴く、歌を流すなどにより、講習を受講していない人でも心肺蘇生を実施してもらうことができる。
- その結果、蘇生実施率や救命率が上がるという社会への大きな還元が期待される。